



場面観察シート 更生園

第2支援グループ ひまわりA棟（女性寮）

わかば寮（男性寮）

コミュニケーション調査実施日 2008年10月23日～24日

場面	グループ	評価コメント	
<p><b>食事</b></p> <p>朝食 8:00～</p> <p>昼食 11:30～</p> <p>夕食 18:00～</p>	<p><b>ひまわりA棟</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全介助の利用者一名を除き同時に食事を始めた。仕切りで区切ったスペースになっており、部屋の隅に利用者がそれぞれ一人、しきりはあるが向き合って食べる人二人、仕切りがない人二人となっていた。</li> <li>調査当日のメニューはビビンバ丼で、利用者はスプーンを使い、よく食べていた。</li> <li>利用者の中の一人は、他の人より一時間後に、職員の全介助で食べている。</li> <li>食事前後の服薬は、洗面所に椅子が置いてあり、利用者はこの椅子に座る。職員は二人一組で、利用者と薬の名前を声だし確認。最後に口を開け残っていないことを確認し終了。</li> <li>投薬準備、薬出しまで職員二人体制が採られ万全を期している。</li> <li>食事後 歯磨き。職員が利用者を椅子に座らせて、歯ブラシや電動歯ブラシで歯磨き。自分で歯磨きできる利用者は二人いるが、仕上げは職員がする。</li> </ul>	 <p>ベニヤやダンボールでテーブルが仕切られた食堂</p>
	<p><b>わかば寮</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事前後、利用者個別の複数薬剤を一包化し、2名の職員が薬剤名、効能を読み上げてから封を切り、利用者の口に直接投薬、水を飲んだ後に口の中を見て、飲み込んだことを確認していた。</li> <li>知的な障がいを持っているが、集団生活における生活訓練の結果、食器の下膳等、様々なことが自分でできるようになっていることに感心させられた。</li> <li>利用者の食堂間仕切壁が、ダンボール下地をビニールクロスで内装している所がある。これは、防災上、不燃材に切り替えることが望まれる。</li> </ul>	 <p>調査日の朝食 米飯、味噌汁、玉子焼き、野菜の煮浸し、煮豆、茶</p>




【評価機関】



特定非営利活動法人コミュニティケア研究所


<p><b>入浴</b></p>	<p><b>わかば寮</b></p>		<p>浴室。入浴時などに利用者の身体に傷を発見すると、近くにいる2~3人の職員が集まり、慎重に確認している。併せてバイタルチェックなども行っていた。</p>
<p><b>排泄</b></p>	<p><b>わかば寮</b></p>	 <p>トイレ内は、利用者の破壊により、修理された箇所が多い。 トイレに限らず、失禁等の消毒のための消毒剤の臭気が強く、建物内にこもっている。換気に配慮が望まれる。</p>	 <p>洗面所の鏡は割れてしまったものが多い。水道は、利用者が水を飲みすぎてしまわないよう、蛇口がロックされている。</p>
<p><b>日中活動</b></p>	<p><b>第1・2支援グループ</b></p>	 <p>行動障がい者のための作業室ベニヤで仕切りが作られている。</p>	 <p>行動障がい者のための作業室ベニヤで個室が作られている。</p>
		<p>間仕切りの中で個別に作業する利用者の様子を、職員が見守りする</p>	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

<p><b>余暇</b></p> <p>夕方～就寝前</p>	<p><b>ひまわりA棟</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食後のリラックスタイムは、一人ひとり自由にしている。ソファは人数分用意され、一人ひとり決まった場所に座り、職員はそばに座って相手をしている。全裸の人、大声をであげて怒鳴る人、寝そべる人、落ち着きなく動く人、隅で座る人さまざまである。</li> <li>19時半ごろティータイム。利用者の一人がコーヒーを飲んだコップを職員に投げる。その後も大声を出したり、別の利用者の上履きを投げたり、大声をあげ、職員を数回叩く。</li> <li>20時頃、就寝前の服薬が行なわれる。職員は利用者を適宜パジャマに着替えさせ、トイレに誘導後、自室に誘導する。二人部屋が2室。後は個室である。</li> <li>安全上、部屋を施錠する利用者が1名いる。</li> <li>カーテンを全部外してしまう利用者がいた。職員は怒ることもなく、合間を見てかけ直していた。カーテンは花柄で女性の居間らしいやさしい雰囲気がある。</li> <li>調査員をみると近寄ってくる利用者さんが、強く叩いてきたので逃げた。気持ちが不安定になったようで、後頭部を壁にぶつけていた。</li> </ul>	
		<p>利用者が齧り、細くなってしまった戸枠</p>	
	<p><b>わかば寮</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者は、あまり他の利用者に対して関心を示さず、それぞれ一人で過ごしていることが多かった。</li> <li>窓ガラスに頭から飛び込む利用者を見たが、全てのガラスを硬化プラスチックに交換しており、事故防止している。しかしアルミサッシの枠にぶつかる場合もあり、怪我をすることもしばしばあるとのことである。</li> </ul>	
 <p>談話室のテレビ・破壊防止のため、ベニヤ板で周囲を囲っている</p>	 <p>居室・危険防止のため、居室にはベッド以外のものは置かれていない。</p>		

		 <p style="text-align: center;">談話室</p> <p>事故防止のため、カーテンは無く、窓は強化プラスチックである</p>	 <p style="text-align: center;">職員詰め所</p> <p>窓ガラスを板で覆い、見えないようにしている。</p>
<p><b>就寝起床</b></p>	<p>ひまわりA棟</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤の職員は一人。利用者は全員自室にいる。夜勤は2時間ごとに各部屋を見回る。昨夜は静かだったとのこと。調査員が入って、緊張したためか、日中もふだんよりゆったりしていたとのことである。</li> <li>利用者の中に一人だけ、カセットテープを聞いて静かにしていることができる人がいる。7時ごろ利用者が二人起きてきたが、居間には出てこなくて、洗面所前の廊下やソファで自由になっている。</li> <li>無理に起こさないで、起きた人から洗面し、朝食を待つ。</li> </ul>	
<p><b>職員の接遇</b></p>	<p>ひまわりA棟・わかば寮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動障がい者の寮であり、コミュニケーションが難しい利用者ばかりだが、職員の言葉遣いは非常に丁寧で、人格を尊重している様子が感じられた。利用者の方は、苗字か名前のどちらかをさん付けで呼んでいる。</li> <li>職員は利用者が暴力的な行為をしても、声を荒げたり、叱ったりすることなく、落ち着いて対応している。</li> <li>職員は利用者全員を見守りつつ、特に注意が必要な利用者からも目を離さない。大変な集中力だと感じた。</li> <li>行動障がいの人たちではあるが、他害となる行為はそれほど多く見受けられなかった。これは職員が利用者に対し、優しく接していることが反映していると感じた。</li> </ul>	

<p><b>建物について</b></p>	<p><b>全体的に</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木製の壁には、利用者の頭突きや蹴りによる孔開きがあり、そこをベニヤ板で補修してある。通常ラッパビスと呼ばれるプラスターボード用ビスでベニヤ(3ミリ程度の薄いもの)を固定しているため、殆どのビス頭が3ミリ~5ミリ浮き上がっており、またビス打ち感覚も600~900ミリと乱打ちで、ベニヤそのものが浮き上がって危険である。</li> <li>ベニヤは厚さ9ミリ以上、ビスは通称コンパネビスと呼ばれる、ベニヤ板に食いこむビスを使うのがよいと思われる。またビス打ち間隔も、ベニヤ外周は200ミリ、中央300ミリで固定、ビスの打ち込みすぎには、ビス孔のパテ処理も望まれる。</li> <li>行動障がい者寮では、木製の戸枠、通路の出隅が利用者に齧られ、原型をとどめない状態になっている。コーナー部分をアルミアングル等の金属でカバーすれば補強されるが、入居者の歯を傷めてしまうので、検討が必要である。</li> <li>行動障がい者向けの作業室は耐震構造からほど遠い建物で、補修不能の状態(耐震壁が無い、コンクリート等使用部材が粗悪)である。また他寮にはあるスプリンクラーも無く、利用者の作業隔壁が、ベニヤ板等可燃材で仕切られている。築後30~40年余の古い棟では、コンセント・スイッチからの発火も懸念される。作業の間仕切り壁は、不燃材に切り替えることが望まれる。</li> <li>全般的に利用者の居住区画、作業室、隣接する空間は全て不燃材に切り替えることが必要と思われる。</li> <li>スプリンクラーの無い居住区画、作業室、隣接する空間に、スプリンクラーの設置が必要と思われる。</li> <li>各寮を往来する鉄骨製通路の壁ブレース(筋交い)のガセットプレート(柱に取り付けた金具)が地上に接し、または埋没しているため、プレートの腐食が顕著で、柱自体も地中に埋め込まれた状態で、柱下部の腐食が見られる。プレートの付け替え、柱ベース設置等、大事に至る前の処理が望まれる。</li> </ul>
		 <p>腐食のひどい部分</p>

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所